

15-26 価値の分解と価値の発生について

「いま、われわれは不変価値部分を見捨てることにすれば、次のように言うのは正しい。すなわち、商品の価値は、新たにつけ加えられた労働を表しているかぎりでは、つねに、三つの収入形態をなしている三つの部分に、つまり労賃、利潤、地代に分解するのであって、この三つのもののそれぞれの価値の大きさ、すなわちそれらが総価値のうちに占めるそれぞれの可除部分は、前に述べたような別々の特有な法則によって規定されている、と言うのは正しい。ところが、逆に次のように言うのは、まちがいであろう。すなわち、労賃の価値と利潤の率と地代の率とはそれぞれ独立の価値構成要素をなしていて、不変成分を見捨てるればそれらの合計から商品の価値が発生するのだ、と言うこと、言い換えれば、それらは商品価値または生産価格の構成的諸成分をなしている、と言うことは、まちがいであろう。⁵⁶ 56 「……金属の価値は、利潤率にも賃金率にも鉱山に支払われる地代にもかかっているのではなく、金属を採掘して市場に運ぶために必要な労働の総量にかかっているのである。」(リカード『原理』、第三章、77ページ)」

(大月版『資本論』⑤ P1092F3-10)

※HP「C、資本主義社会 I」の9-4「魔法にかけられ転倒され逆立ちした世界、古典派ブルジョア経済学の功績と限界、俗流経済学と経済的三位一体と支配的諸階級の階級的利益」参照。